

令和6年度 関市スポーツ推進審議会 議事録（要約）

日 時：令和7年1月29日（水）14時00分～

会 場：アテナ工業アリーナ 2-2会議室

参加者：名簿のとおり（欠席1名）

1. 開会あいさつ（協働推進部長）

（協働推進部長）

本日は令和4年度策定の第2期関市スポーツ推進計画の点検と評価を中心にお話させていただきます。皆様の忌憚のない意見をいただき、本審議会をよりよい実のあるものにしていきたいのでよろしくおねがいします。

2. 委員の紹介

今年度からの委員の交代

関市小中学校長会 会長 三島 寿美子 → 藤根 隆

倉知スポーツクラブ 会長 春見 隆

→ NPO 法人キウイスportsクラブ 理事長 桑原 直樹

3. 会長・副会長の選出

会 長 （一財）関市スポーツ協会 会長 喜久生 明男

副 会 長 関市スポーツ少年団 本部長 川嶋 英司

4. 会長あいさつ（喜久生会長）

（会長）

2年の任期となりますが、関市のスポーツ振興をさらに一歩でも進めるように頑張っていきたいと思っておりますのでご協力お願いします。

5. 議 題

（1）第2期スポーツ推進計画の点検と評価について （参考資料 別紙1）
事務局より説明

【意見・質問】

（会長）

問題が多岐に渡り、一度聞いただけでは覚えきらない内容ではありますが、それなりに皆さん方ご意見あるかと思いますが、もしご意見ある方がいらっしゃいましたらいただきたいと思います。

（会長）

ちょっとしたことなのですが、先ほどの女子野球（GrowUP プログラム）に関市の子ども達はどのくらい参加されたのですか？

（事務局）

関市だけではないのですが、岐阜・愛知・三重から約 100 名の小中学生が来ていたことは聞いています。

(会長)

(資料 1) 写真に乗っているのはほとんど関の子どもたちですか？

(事務局)

割合については分かりかねますが関市の子たちだけではないです。

(会長)

スポーツの振興において、いかに選手が、市民の方々がスポーツイベントに参加していただけるか。スポーツ協会もいろいろなイベントをやりますが、いつも悩まされます。たくさん来てくれたらいいのですが、顔触れがあまり変わらない。ぜひ皆さん、子どもたちを大人たちに、誘ってきてくださいと言っても、来る人は来るんですが、来ない人は来ないのでその辺をどうしたものかというのが、私の一つの疑問でした。それで昨年度（昨年）はちょっと変わったことをやってみたのですが、一つは幼稚園児を対象に、親子玉入れ大会をやってみました。そうするとよかったことが二つありました。一つは子どもたちがすごく体育館を走り回って、あまり外で運動しない子、幼稚園ではやってると思いますが、体育館の中をぐるぐる回ってやってくれたということ。それに伴い、若いお父さんお母さん、ほとんどスポーツイベントに参加できない方が玉入れを楽しんでくれたということ。これを続けていくと、30 代 40 代の若い世代が参加してくれるんじゃないかと思いました。そういうことで、何か変わったことをやっていくことが大切だと思いました。もう一つはカローリングです。カローリングは昨年度（昨年）は一般参加と新しく企業対抗というのを加えました。いろんな企業から出てくる人というのは、良く働いている人（日中働いている人）ですので、参加人員は少なかったんですが、参加してくれるとなると、やはり若い人たちが多くなりますので、一度参加をして「あれは面白いよ」となれば 1 チームが 2 チーム、2 チームが 3 チームと輪が広がってくるんじゃないかという気がしました。そういった意味で、いろんなイベントも企業対抗なんて入れるとですね、働き盛りのあまりスポーツに参加してくれない人たちも、「ちょっとやるか」という形で出てくれるんじゃないかという気がしました。こないだの関市の駅伝大会もそうでしたね。意外と企業のチームも出てくれたので、これもよかったと思います。

(事務局)

昨年の大会は 4 年ぶりの開催となったので、参加チームがどれだけ来るかが不安だったんですが、なんとか 40～50 チーム出ていただきました。元々中学生が多く参加していた大会だったんですが、部活動の地域移行とかでなかなかチームで参加できない、あと生徒数の減少とかで、なら企業に声を掛けないということなので、今年は関の商工課と連携をしまして中小企業の会社に出ませんかと案内をさせていただき、新規のチームに出ていただいたので、これを継続して参加チーム数が増えていけばと思いますが、大変参考にさせていただきましたのでありがとうございます。

(会長)

もう一つ、全体にお願いしたい「する」方ですが（基本目標Ⅰ「する」スポーツの推進）やはり、イベントに若い人の参加が少ない。ちょうど働き盛りが少ない。もう一つは高齢者が少ない。高齢者は何がダメなの（なぜ参加できないの）か聞いてみると、足がない。一番の問題はそこなんですね。足がないので、参加したいん

ですけど、(参加) できない。軽スポーツの中で、例えばグラウンド・ゴルフとか、もうちょっと集まればいいのになと思ったんですが、中の人(参加者)に聞いてみると、やっぱり足がない人が参加できないんですと、仲間内では連れてくるんだけど、その辺が市として大々的にやろうとしたら、巡回バスを出すとかですね、そういうようなアイデアも一ついるんじゃないかという気がしました。足がない人をどうするのか。多分 80 代の人だと思うんですが。これはあくまで私の勝手な意見です。

(副会長)

スポーツ少年団も少年団独自の単位団以外の交流を図るイベントをいくつかやっています、1 月には交流大会、以前は 11 月に学童交流駅伝大会ということでいろいろやってたんですが、駅伝は 5〜6 名集まらないと参加できないということで、それ以下の(人数の)個人種目の少年団はその時点で参加できないということで、駅伝ではなく、スポーツ交流大会という趣旨にしましてここ 3〜4 年位やっているのですが、スポーツ推進委員の方たちに、ご協力いただいてグラウンド・ゴルフとかモルック、普段小学生が体験できないことを体験いただき、結構団員からは反響がありました。資料(別紙 1) P4 の問 13 にある表で、一番少ないのが 30 代、40 代、50 代の男性ですか。少し残念だと思いました。アンケートの中でやりたいけどやれない理由を知っておく必要があるのかなと思います。昔、私の勤め先なんかも野球をやっていた時期がありましたが、そのころは入社したての関商工の野球部出身の子とかたちが入ってきたら誘って、やっていましたが、今は(会社に)グラウンドが残っているだけで恥ずかしながら、全然やっていなくて、むしろ、そのグラウンドを少年野球に貸したりしています、どこで何をやっているかという情報を周知していくことも重要だし、それだけでなくお子さんがやりたいといった時に支援をしていく必要があると思います。全般的に関市のスポーツ行政に自分も貢献できたらと思います。

(委員)

二つあります。一つは中濃体育協会の土本会長と関市の市長のところへ話に行ってお願いをしに行ったら結局はだめだったんですが、何かというと、7 月の第 1 週の日曜日に中濃の体育大会があります。会場は関市、美濃市、郡上市、主会場は持ち回り、主会場となる町でできない競技は、例えば関市が主会場の場合、美濃市や郡上市をつかってやるのですが、その時の会場費が、美濃市や郡上市は無料なんです。市民及び市民が参加する大会の会場ということで 100%の減免が効くのですが、残念ながら関市だけは会場費が部分的な減免だけで、100%の減免にならない。免除にならないということがあります。それを何とか関市も 100%免除にしたいだけないかということをお願いに行ったら土本会長と山下市長のところをお願いに行きましたが、今年はそれが実現しないで、使用料をお支払いしたんですが、この「する」スポーツ(基本目標 I 「する」スポーツの推進)の最前線で今やっている中濃の大会に関市の選手も、半分くらいが関市の選手なんです、出るその大会を応援する、「する」スポーツを応援するという意味でも、ぜひ会場使用料は 100%(減免)にするというと、この今日の会の委員さん全員の総意だと、そうするのがいい、決まったら市長にぜひ持って行っていただけないかと思っているのが一つ。もう一つは(関)シティマラソンの参加者が減ってきたというのは、私も好きで走っていた人間として思うのは、当たり前だと思います。お金を払って苦しい思いをして雨の日や暑い日

なぜ走らないといけないのかと。毎日同じコースを毎日走れるのに、その時に走りたい人だけが走る大会に自然になっていくだろうと思っていたら、やっぱりどの大会もそのようになりつつ合って、人と競っていい順位が欲しいとか、過去の自分よりいい記録を出したいという、競うタイプの人たちは、続けて走るけども、楽しむ人たちは別に信号で止まって、一步遅れたって全然 15km・20km 走ることには問題はないんです。わざわざ大会に行かなくても天気の良い日、気分の良い日に走ればいいので、そういう楽しみ方を、していくようにどんどんなっていくだろうなという気はしていて、逆にウォーキングの大会でこの期間に、1 か月の間にスタートのところで、これから走る（歩く）ところで、スマホでやって（スマホで入力して）、チェックのポイントで、スマホで登録するとチェック通過が確認できて、そしてゴールに到達した時点で、ゴールというウォーキングの大会があって、競うんじゃないくて楽しむウォーキングが出来る、そういうイベントが、人が集まらないようにというコロナ期のイベントとして、成立していました。なのでそういうのか一つのこれから、マラソンも 1 分 5 分 10 分遅れても楽しむ人が参加するマラソンは、信号で止まってもいいので、そうやってコースを走り切るぐらいのシティマラソンが、1 部と 2 部を作ったら、2 部はそういうマラソンですというようなものとか、2 部は別日とか、天気の良い日にそういう期間でやりましょうとか、ちょっと発想を変えてシティマラソンをやるのも面白いんじゃないかと思っています。「する」人を増やすにはアイデアが必要だと思います。

（委員）

今日配布されたこれ（別紙 1）のせきのまちづくり通信簿について、アンケート調査を毎年取られているというのを聞いて、趣旨はまちづくりという視点でやられている調査だと思いますが、私の所属する健康づくり推進委員会でも 5 年に 1 回同じ調査をやっていらっしやいまして、それは健康づくりに関する施策を作るためにやられているアンケートですけども、いろんな部署でいろんなアンケートをやられているのに、例えばこれを毎年やっているのだったら、去年と比較して、あるいは過去 5 年と比較してどうなっているのだとか、分析をしっかりやられて、そして共通するようなところは、もっと共有してやられた方が、なんかもったいない気がしました。市民 3,000 人を抽出してやられる。例えば私たち大学で 3,000 人の対象者に向けて調査をやるとなると、倫理委員会にかけてそれが通らないと調査が出来なく、ものすごく時間がかかるし、大変なことなんです。それなのに、行政がこういう形で、やるとなると協力していただける方たちはものすごくいますし、結果が 1 年ごとに出るのは本当にうらやましい。そのせっかく集められた調査がその段階で終わってしまっただけではもったいないですし、やはり分析ですね。年代別だとか男女別だとか、関市は今ものすごく広い（面積が）ですよ、地区別にしてこういう傾向があるだとか、その地域独特の毎年やられているイベントだとかあると思うので、地域性を生かしたものを考えると、先ほどのお話があったように、やはりずっと続いているものを、人が来ないからやめてしまうのではなく、やめるのはいつでもやめれると思うので、なにか継続できるような方法がないか探っていくことが大事なのではないかと思いました。

(2) 部活動の地域移行について (進捗報告)
事務局より説明

(参考資料 別紙2)

【意見・質問】

(会長)

(地域移行するにあたって) 一番問題なのは何でしょうか。生徒の数も少ないし、指導者の問題、謝金の問題、どこが一番問題なのでしょう。

(事務局)

お金も問題ですが、要するに保証がないので。今後クラブを続けていけるという保証のためにもある程度のお金というのは必要ですが、今自分として考える一番の問題は、周知です。その地域クラブをもっと広げないといけないと思っています。生徒は多少は分かっています。先生も多少は分かっています。けれども親とか地域の方々が全然理解をされていないと思います。先生の中にも分かっている方は沢山います。自分たちが部活動から離れられてラッキーだと思っているだけの先生もいます。

(委員)

私は板取川中学のソフトテニスの社会人指導者を十数年やらせていただいておりますが、すでに地域移行もして、指導者も継続してやらせていただいておりますが、今年度も指導者謝金として10万5千円をいただきながら、今までより助かっているところではありますが、指導者も市内(旧関市)はすごく多い地域クラブもあれば、うちのよう指導者の数が少ないところもあります。若い指導者を確保していくというのはこれからの課題だと思います。あと活動するにあたり、地域クラブの保護者の方たちが心配しているのは施設を借りるのにお金が必要だということでございます。今までの部活動であれば100%減免で学校施設が借りれていたのですが、これが地域クラブになって、地域クラブで借りようとなると75%の減免で25%の負担があるところがあったりして、そういった点で出てきています。令和8年度からは活動助成金がいただけるのですが、結局そちらを施設使用料に充てるのですが、関市からもらった助成金で関市の施設使用料を支払うということなので、そのあたりが今後の検討材料なのかなと思っています。ございます。

(事務局)

関市の教育委員会規則を改正し、学校施設の使用料はスポーツ少年団とともに(地域クラブも)無償にしてもらっています。学校施設のみです。ここ(アテナ工業アリーナ)は駄目です。

(委員)

そうなんです。ただ地域移行って、学校の部活を地域に移行するというのはすごく大きな変化だと思うのです。これを今までの条例を同じで75%減免だとか、ずっと変えられずに行こうとしているのかは分かりませんが、そのあたりも一緒に変えていかないと、部活動やる子も減るし、保護者としても「費用が掛かるからやめよう」という人が増えていくのではないかと懸念します。これほどスポーツをしようとして市が考えているのであればそういった費用的なところも少し考えて、見直す必要があるのではないかと考えています。

(3) ねんりんピック岐阜2025について
事務局より説明

(参考資料 別紙3)

【意見・質問】

(委員)

今、最後のところで歓迎のぼり旗の制作については、県の実行委員会の主導というのですが、例えば市内、小学校、中学校ありますが、すべての学校なのか、一部の学校なのか、校数はどのくらいなのか、そして時期はいつくらいなのかわかりますでしょうか。

(事務局)

学校については指定になろうかと思います。前回ですと武芸小学校と津保川中学校にお願いしておりまして、時期は未定ではありますが、夏ごろまでにはお願いがあると思われます。

(委員)

前回のものが継続されるのか、新規になるのか分かりますか？

(事務局)

そこについても、自治体（学校）の判断によると聞いております。前回作成した物は残っておりますので、それをもう一度使う、もしくは改めて今の生徒に使うかは各自治体（学校）の判断であると聞いております。

6. 閉会あいさつ（川嶋副会長）

(副会長)

2時から始まった会議、約2時間熱心な協議ありがとうございました。スポーツ審議会ということで、今までに年1、2回招集があり意見を述べさせていただきましたが、今年は大きなイベントとしてねんりんピックがございますのでまた、皆さんそれぞれの立場でご協力できることがあれば力を発揮していただきたいと思います。本日はスポーツ推進審議会、長時間進行していただきましてありがとうございました。これにて閉会いたします。